

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170100840		
法人名	医療法人 アスピオス		
事業所名	グループホーム風紋館 波の館		
所在地	鳥取市立川町5丁目312—1		
自己評価作成日	平成28年10月28日	評価結果市町村受理日	平成29年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人鳥取社会福祉評価機構		
所在地	鳥取県鳥取市良田39番地		
訪問調査日	平成28年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・鳥取県東部では唯一の3ユニットのグループホームである。ユニットそれぞれを一つの家族と考え、近所付き合いをしながら、共に支え合い、楽しく生活をしています。
 ・職員一人ひとりが入居者様と生活を共にしていることを意識し、ゆっくりと関わりをもつようにし、落ち着いた環境で寄り添い、ゆっくりとコミュニケーションを図り、多くの刺激(五感の活用・行事etc)を取り入れ、共に生活しています。
 ・地域との繋がりを大切にし、地域の皆様にも入居者様の笑顔を支えて頂いている。特に地域の子供たちの力が大きいものとなっている。(幼稚園、保育園、小学校、中学校 他)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市内東部の住宅地に位置する3ユニットの施設で開設後約13年のグループホームで有る。職員も勤務5年以上の職員が7割を占めており、職員の半数は介護福祉士の資格取得者で有り、ベテランの職員によるケアが行なわれている。利用者との共生と地域との繋がりを大切にを理念にしており、利用者との係わりを大切にして、利用者も職員も同じ家族という考え方で親身になったケアをしている。ご家族アンケートにもいつ訪問しても明るく迎えて頂き、対応が迅速で、家族でも出来ないケアに頭が下がるという意見が多く有り、丁寧なケアを行なっている事が伺われる。地域とのふれあいも大切にしてい、施設主催の夕涼会には地域の方だけで200人を越える盛況で、地域からも信頼されている。ボランティアや実習生も多く受け入れており、近隣の幼稚園児や小学生等の交流も積極的に行なってい

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を理解し、日々のケアの中で、一人ひとりの尊厳を大切に、共に支え合いながら生活している。職員全体が理念を理解し、良いサービスの提供を目指して取り組んでいる。	理念はリビング・食堂に掲示されており、職員も全員が理念の意味や大切さを理解している。利用者との共生という理念には職員主体で動くのではなく、利用者の希望を聞きながら利用者と共に動くという事を実践している。毎年職員会議で理念の見直しを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の活動(公民館行事、運動会、一斉清掃、交通安全立ち当番等)に参加し、地域の方々との交流を図っている。地元幼稚園児の定期的な来訪や、事業所の行事に、地域の民生委員、ボランティア、家族の方々の参加があり、日常的に交流している。	町内会には設立時から加入しており、地域の一員として清掃活動や交通安全の立ち番を行い、又近隣の幼稚園児や小学生が多く来訪し、行事に参加したり、利用者が幼稚園や小学校の運動会に参加して交流を深めている。ボランティアや実習生も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けて広報誌を発行し、認知症の理解や支援の方法を伝えている。管理者は小学校へ出向き、認知症について授業を開いたり、見学(地域の方、老人会)やボランティアの受け入れを通じて、活動できる場を提供し、施設理解を深める機会を作っている。運		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一回運営推進会議を開き、現状報告や活動報告を行なっている。会議では、委員の方々から様々な意見や助言をいただき、情報交換の場になっている。地域方や行政を交えて話し合う良い機会となり、その意見を活かしサービスの向上に繋げている。	現状の報告を行った後に意見交換をしているが、色々な立場の委員から様々な意見が活発に出ており、その意見を参考に施設運営に活かした事例も有り、運営推進会議が施設運営の参考になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者の参加があり、運営状況や入居者状況、事故発生の報告を行ない、現状を把握して頂き、意見を頂いたり協力体制を取っている。	市には事故報告や生活保護関係の事案でコミュニケーションを図っており、地域包括支援センターからは認知症サポーターの講習や研修会の依頼で講師を引き受けており、広報誌も市に配布して施設での活動を広く伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに全職員が取り組み、身体拘束の弊害や苦痛を理解している。外へ出たい方がいる場合は引き止めず、一緒に行動したり、見守りを重視し、ご本人に寄り添うようにしている。	身体拘束をしない事は運営規定や契約書に明示しており、職員研修も年一回は行なっている。又身体非拘束のマニュアルも年に一回は見直している。利用者が徘徊の気配がある場合はその気配を感じて事前に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修に参加し、理解し知識を共有している。日々のケアにおいて個々の尊厳を守り、日々の声かけやケアの方法について話し合っている。職員同士が連携を図り、ゆとりが持てる環境にする事が、虐待防止、虐待の見過ごし防止に繋がると考え		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方が2名ある。管理者や職員は、制度を理解し人権の研修を受けている。必要な時には情報提供し支援できる体制になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項の説明や契約の内容を分かりやすく説明し、不安や疑問などを十分話し合い理解・納得して頂いている。他施設へ入所や入院などにより解約する際も十分説明し、今後について話し合いを行い理解・納得して頂くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、ご本人からの声や面会時などで家族からの要望や意見をスタッフ間で話し合い、解決できるようにケアに反映させ様子を見ながら実施している。運営推進会議では、入居者・家族の参加もあり外部の方へ要望意見をお伝えしている。	年に一回は夕涼会の前の時間を利用して家族会を開催しており、ご家族の意見を伺う機会にしている。来訪時や利用者の受診の付き添い等で来所された機会を捉えて積極的に話掛けてご家族の希望や意見を聞きだしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間で日々コミュニケーションを取り、意見や提案を連絡ノートを活用し共有している。管理者は、日々職員の意見を聞くよう心がけ、法人と連携を図りながら改善に向けて取り組んでいる。	スタッフ会議は毎月開催しており、時間の半分以上は職員や施設運営の討議に費やしている。職員の勤務シフトや介護方法、利用者への言葉掛け等の意見が出て全員で討議して施設運営に活かしている。管理者は職員の意見を良く聞いて運営している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員とコミュニケーションを図り、個々の意見や現状の把握に努めている。改善が必要であれば代表者に要望し、職員が向上心を持ち学びあって働ける環境づくりに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の能力や段階に応じた研修計画を回覧し、自主的な研修参加を呼び掛けている。一人ひとりが自己啓発や力量を増やし、役割を担っていくような環境がある。施設内外でも研修を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、相互研修や合同行事などが行われ、他施設の取り組みやケアサービスについて情報交換を行っている。自らの振り返りや、良い刺激になりより良いケアに繋いでいる。管理者は、他施設の運営推進会議の委員として参加し、情報		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前調査を行い、情報収集することで本人の要望や状態の把握に努めている。事前に本人・家族に見学して頂き、不安や要望を伺い安心して暮らせる居場所になるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人と共に見学に来て頂き、家族からの要望や不安を伺い、希望に沿うよう取り組み、新しい環境で安心して生活できるように努めている。入居後も面会時には状態を報告し、要望や相談があれば対応していけるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前から本人・家族と話し合い意向を把握し、まず必要な支援を見極めケアプランを作成し、安心して受けられるサービスとなるよう心がけ、本人・家族と共に考えていくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に支え合い、共に生活する」という意識を持ち楽しく生活を送っている。職員は、人生の先輩から学ぶという姿勢で日々関わり、助言を頂いたり、励まし合ったり助け合って生活し喜怒哀楽を分かち合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の面会時や電話などで、本人の状態を把握しながら家族の意向も伺い、本人と家族が良好な関係となるよう努めている。行事などに参加して頂き、本人と一緒に過ごして頂きながら悩みや思いを伺い、家族として出来ることは協力して頂き、共に支えていく関		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力により、受診の際には外食で好きなものを食べたり、温泉に行くなど馴染みの場所への外出を継続して頂いている。遠方から受診の為に来訪されている家族もあり、受診を兼ねて自宅に外泊される方もあり、今までの関係性を保つ支援に努めてい	事前情報や本人、ご家族から生活歴を把握し、なじみの美容院に行ったり、ご家族と墓参りに行ったりと馴染みの人や場所等の関係を維持するように支援している。年賀状も書いて頂き、それまでの関係が継続できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	適度に関係を調整しながら席替えであったり、 自分の時間をゆっくりくつろいで過ごす事 も大切に、自然な形で生活出来るよう支援 している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の 経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には、ご本人の状況に合わせた支援 が出来るようにチーム全体でケアの提案に 努めている。退居後も相談して頂けるよう関 係を断ち切らないよう取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々生活の中で、ご本人との会話や行動を 観察し思いをくみ取り、希望に沿う暮らし方 や思いが実現できるように支援している。小 さな気づきや情報も職員間で共有するよう 心がけている。	本人の意向や希望をなかなか言われない利 用者にはその時々表情や態度、動作を良 く観察して本人の思いを把握するようにし ている。散歩や野菜作り等の趣味を活かして 本人の思いが実践できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	事前調査や家族から話を伺ったり、関わり のあった医療・福祉関係者からの情報収集 を行っている。入居後も昔の話や家族から の情報を頂き、意向を探るなどを行い今ま での生活が継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	個々の日々の状況、生活リズム、心理状態 などの把握に努め記録に残し、申し送りや 連絡ノートを活用し情報を共有している。小 さな変化にも気づき職員全体で考え適切 に対応するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人や家族の思い、要望を聞いたり本人に とって必要なことは何かを考え、職員間で意 見を共有しそれを元に介護計画を作成して いる。定期的に見直しを行い、状態変化の ある場合は随時見直しを行っている。	入居前の事前情報を基に本人やご家族から 聞いた希望や要望をプランに組み入れた計 画になっている。ケース記録の記載も丁寧 にかつ詳細に記載されており、プランどおりの ケアになっている。評価の検討も行なわれて いる。	短期、長期の期間の明示と計画書の 書式の一部再検討をお願いしたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録用紙には、日々の様子やケアの内 容、言動や細かな変化や注意点など詳しく 記入しよくわかるようにしている。職員は、申 し送りや連絡ノートを活用し、情報を共有し ケアプランの見直しやサービス提供に生か している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望を伺いながら、その時の状況に合わせてデイサービスのレクリエーションに参加し気分転換を図ったり、デイサービスのマッサージを受ける等、普段と違う過ごし方を提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に幼稚園・小学校との交流やボランティアの来訪があり、運動会に参加したり公民館行事にも参加している。地域の民生委員の方が幼稚園との交流会に参加されるなど、地域の方々との交流も盛んになり、理解を得られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望するかかりつけ医に受診される方、往診の方がいる。受診時には事前に電話で身体状況を連絡し、情報提供したり、家族に身体状況報告書を持参していただき、適切な医療を受けられるように支援している。受診結果は職員で情報を共有し、家	利用者の入居前のかかりつけ医となっている。認知症の方は専門医に紹介し受診したり、往診に来てもらう利用者もあり、相談しながら支援している。受診前及び受診結果は身体情報報告書で情報共有できている。職員にも、連絡ノートやカルテ等で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に情報交換を行ない、入居者の状態を理解していただいている。体調の変化、内服薬の変更等もすべて報告、相談し、受診の必要性の判断や助言をもらい、連携を図りながら適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院前までの生活状況を介護連絡票にて情報提供している。入院中はスタッフが面会に行ったり、病院関係者、家族と退院に向けて話し合いをし、「退院後スムーズに生活ができるよう情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、「重度化した場合における対応の指針」を説明し、理解していただいている。状態の変化に応じ、主治医と連携を図りながら、家族、職員全体で今後について話し合い方針を決めている。	重要事項説明書に重度化した場合における対応の指針として明記し入居前にご家族に説明している。AED研修や勉強会を看護師を中心に行って、状態の変化があった利用者にはご家族、本人と話し合いながら、医師とも連携し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、緊急マニュアルに沿って対応できるようにしている。救急蘇生法の勉強会も実施し、職員全体が理解している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、昼間・夜間に火災・地震を想定し、防災訓練を実施している。町内の自警団、消防署の方の参加があり、避難経路の確認や消火器の使い方の訓練を行っている。様々な災害に備え、避難法や対応を学習していく必要がある。	マニュアルを見直し、火災と地震は夜間想定 の避難経路の確認の訓練を消防署の協力により利用者、職員と共に行った。災害用の電話があり、法人とも協力体制が出来ている。家具は固定され、食料、飲料水、トイレ用品、毛布等の備蓄も準備している。	不審者対応マニュアルの作成と、呼び出し訓練の実施と避難場所の再検討をお願いしたい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重したケアや対応には気を配っている。職員同士でも気づいた時には注意したり、日々のケアを振り返りながら対応している。記録など個人情報の取り扱いには十分気をつけている。	年1回全職員が接遇研修等を行っている。日常の対応について言葉使いや誘導の声掛けは、その都度確認するかスタッフ会議で話し合っている。利用者によって声のトーンにも配慮している。介助中はドアとカーテンは閉めるなど徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせ、その日の体調や気持ちにも配慮しながら、本人に選択していただけるような声かけ、働きかけを心掛けている。日常の会話の中で、希望や思いを探ったり分かりやすい言葉かけで自己決定しやすいようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や精神状態により、一人ひとりのペースを大切にし、思いに添ったすごし方ができるよう支援している。離床時間やおやつ時間も状態に合わせて声をかけ、ゆっくと過ごしていただいている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容師に訪問してカットしていただいている方や、家族が美容師で定期的に来られ、居室で話をしながらカットされる方、訪問美容院を利用される方がある。外出時には一緒に服を選んだり、本人の好みを大切にし、おしゃれを楽しめるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に買い物に出たり、旬の食材を取り入れたり、共に食事を楽しめるよう努めている。職員も同じテーブルで食べ、家族的な雰囲気になっている。食事の片づけはその時の状況により、負担のないようできる範囲でおこなっていただいている。	畑の野菜などを使って、利用者は豆の皮むきや食器拭き等を職員と一緒にいき、楽しい食事となっている。利用者の希望を聞きながらメニューを作成し栄養士に確認している。誕生日には赤飯、ケーキにし、手造りのおやつや鍋パーティーなど工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量や水分量は記録に残している。特に水分の摂りにくい方には、スポーツ飲料、ジュース、お茶ゼリー等、個々の好みに合わせ工夫して提供している。カロリーや献立のバランス等、栄養士のアドバイスを受けながら体重の増減にも配慮している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に合った口腔ケアを行っている。個々の能力に合わせて職員が介助を行ない、口腔内を観察したり義歯の状況を確認している。義歯は定期的に義歯洗浄剤で洗浄し、清潔保持に努めている。自立の方は自室で行なっているが、口腔内や歯ブラシの			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿回数が多い方や尿意のない方にはさりげなく声をかけ、トイレへ案内するように心がけている。日頃から一人ひとりの表情や動きにも注意し、タイミングを見て声をかけるなどで出来る限りトイレで排泄出来るよう支援している。	利用者の排泄サインを周知し、オムツの使用をなくし、リハビリパンツ、パット、布パンツで全員がトイレで排泄支援している。さりげなくトイレ誘導し、失敗した場合でもトイレで他の利用者がわからないように対応し支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握し、食物繊維を中心とした献立の工夫や水分量の確保、ヨーグルトを提供するなど個々に合った対応に努めている。便秘傾向の方には主治医と相談しながら下剤の調整を行うなど個々に合わせて対応している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中に、個々の希望や身体状況に合わせて入浴支援を行っている。入浴を嫌がる方や一番風呂を嫌がる方には時間をずらしたり、別の日にするなど対応方法を工夫している。	週に2、3回の入浴となっているが、時間帯は希望により入って頂いている。話をしたり、歌を歌ったり、ゆず湯、菖蒲湯にして、くつろいだ気分での入浴支援をしている。嫌がる方には、原因を探しシャンプーハット対応や声掛け等工夫して恐怖心に配慮した入浴となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調に合わせて休んで頂いている。午睡の習慣がない方にも日中の活動量や体調に合わせて休んで頂き生活のリズムを確保し、安心して夜間眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の変更などは、その都度情報を共有し状態を観察しながら服薬管理を行い、症状の変化などは主治医・看護師に報告し連携を取っている。職員全員が薬効、副作用について理解し誤薬のないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることや出来ないことを把握したうえでその人らしく過ごせるように役割を持って頂いたり、得意なことなど活躍できる場を作るよう心がけ、日々の生活が楽しく送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、体調に合わせてなるべく外気に触れるように心がけているが、外出の難しい方が増え、全員そろって出かける機会が減っている。個別では家族に協力を頂き受診時の外食や外泊を行い、家族との交流も大切に頂いている。	100曲マラソンやわらべ館にバスに乗って行ったり、10月には砂の美術館に外出し今度、サーカス見物に出かける。弁当を持って運動会にも参加した。ご家族の協力で外食したり、希望で喫茶店や墓参りに出かけ、歩行困難な方も外出支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談により少額のお金を持って頂いている方もあり、外出される時に買い物や外泊時にお孫さんにお小遣いをあげることを楽しみにされている。自己管理のできない方には立て替え払いで対応し、家族や後見人に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	直接電話をかけ話をされる方や、受診の前日には電話をかけ確認することで安心されたりと個々が家族とのつながりを大切に出来るよう支援している。携帯電話を持たれている方もあり、家族と自由に話をされ安心して生活されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節を感じる花を飾ったり、入居者の方と職員で一緒に作った作品を飾っている。明るく日当たりのよい環境で、調理の匂いや皆の何気ない会話の中からも家庭的で和やかな雰囲気が感じられている。	観葉植物を置いたりしてきれいに清掃されている。フロアには利用者の作品や行事の写真、作品が飾ってあり季節感が出ている。また、落ち着ける量のスペースも有り、調理は対面式で利用者が食事の準備が分かり家庭的な雰囲気がする。適温湿となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では気の合う者同士が自然に会話しやすいようにテーブルや椅子の配置には工夫している。時には意見が合わなかったりする事もあり、様子を見ながら席替えをするなど工夫をしている。お互いの居室を訪問し、雑誌の貸し借りや一緒に洗濯物をたたんだり		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と相談しながら使い慣れた家具、食器、日用品などを持参して頂いている。家族の写真や個々の馴染みの物を置き安心して過ごせる工夫をしている。居室ごとに温度管理を行い、直射日光はカーテンで遮るなど快適な空間づくりをしている。	居室には、利用者の馴染みの時計、ご家族の写真、家具や趣味の品物、布団、ぬいぐるみ等が持ち込まれている。和室もあり寒い利用者には炬燵を用意したり普段の会話の中で話し合いながら居心地よく過ごせるよう配慮し、安心して暮らせる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室外には手すりが多く設置してあり、個々の状態に合わせて活用している。トイレや浴室には大きな字の表示があり一人でも行けるように分かりやすくしている。椅子やタンスの配置も考慮し、伝い歩きがしやすいように工夫をしたり、障害物となる物は除去し老人		